派遣専門家オリエンテーション資料

バハレーン

State of Bahrain

任国情報

１９９５年

JICA LIBRARY
J 1146270 [2]

国際協力事業団

国際協力総合研修所

JICA
C302
20
JIC
LIBRARY

はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびＪＩＣＡ役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家等ＪＩＣＡ関係者の皆様より多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成７年３月

国 際 協 力 事 業 団

国際協力総合研修所長

1146270 [2]

目次

I 概　況 1
II 生活事情 7
1. 食生活 7
2. 衣　料 11
3. 住　宅 13
4. 医　療 15
5. 教　育 18
6. 家庭の使用人 20
7. 交通事情 21
8. 通　信 23
9. マスコミ 24
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ 26
11. その他のサービス 30
12. 観　光 31
13. 治安、緊急時の心得 33
14. 出入国手続および帰国手続 34
15. 私財の輸送、引き取り、購入 36
16. 社　交 38
17. 任国官公庁 39
18. 在外日本関係機関など 40
19. 地方都市 41

I 概　況

表－１：バハレーン概況

a) 正式国名	（和文）バハレーン国 （英文）State of Bahrain
b) 独立年月 旧宗主国	1971年8月14日 英国
c) 政　体	首長制
d) 元首の名称	シェイク・イーサ・ビン・サルマン・アル・ハリーファ （Sheikh Khalifa Bin Sulman Al-Khalifa）首長 （1961年12月就任、世襲制）
e) 位置・面積	北緯26度、東経50度～51度 １千平方キロメートル　（注１）
f) 首　都	マナーマ
g) 総人口	51万6,000人（1991年）（注１）
h) 民族等	アラブ人（バハレーン人、その他）、アジア人
i) 公用語	アラビア語
j) 宗　教	イスラム教（スンニ派、シーア派）、キリスト教
k) 暦	＜日本との時差＞ －６時間 ＜祝祭日＞（1994年）（注２） １月１日　新年 ＊１月10日　Leilatal-Meiraj（モハメッドの昇天祭） ＊２月12日　ラマダンの始まり ＊３月14日　Id al-Fitr（ラマダンの最終日） ＊５月21日　Id al-Adhaの祝日 ＊６月10日　イスラムの新年 ＊６月19日　Ashoura（ﾓﾊﾒｯﾄﾞの孫フセインの殺された日） ＊８月19日　マホメッドの誕生日 12月16日　独立記念日 （＊は毎年日が変わる祝祭日）

出所（注１）World Development Report　1993　The World Bank
（注２）The Europa World Year Book Vol.1　1993　Europa Publications Limited

（1）国土の概要

バハレーンはアラビア半島東方、北緯26度、東経50～51度、アラビア湾岸（ペルシャ湾）のほぼ中央沖合に位置し、面積は693.15平方キロメートル（以上数値はEuropaPublications資料、1993）である。大小33（東京書籍資料、1991）の島々からなり、国土の中心はバハレーン島で（淡路島よりやや小さい）、その周囲にはムハラック、及びシトラ両島があり、これらの島は陸橋でバハレーン島と結ばれている。

バハレーン島中央部にはジャバル・ドゥハーンと呼ばれる海抜150メートル程度（東京書籍資料、1991）の小高い丘陵があるが、ここを除いてはほぼ平坦で、そのほとんどが岩漠あるいは丘陵地帯である。バハレーン島北部には湧き水があり、農作物の栽培も行われている。

隣接する国はサウディ・アラビアとカタルである。

（参考文献）

『世界各国要覧　6訂版』 1991　東京書籍

The Europa World Year Book Vol.1　1993　Europa Publications Limited

（2）気候

バハレーンは周囲を海に囲まれた小さな島国であるため、砂漠内陸部のような激しい気温の日較差はみられないが、相対的に1年を通じ湿度は高い。

盛夏は6月から9月で乾燥砂漠地帯特有の酷暑を伴う夏であり、湿度も高く、日中気温が木陰で40度を超えることも珍しくない。8月の平均日最低気温は29度、同最高気温は38度である。年間を通じて降水はほとんどないが、11～3月の冬期には多少の雨が降る。冬期は温暖で比較的過ごしやすい。年間平均降水量は53ミリメートル（1970～75年）である（以上数値は国際農林業協力協会資料、1993）。

（参考文献）

『開発途上国の基本統計』 1993　国際農林業協力協会

『世界各国要覧　6訂版』 1991　東京書籍

（3）人口

1991年の総人口は推定で51万6,000人（世銀資料、1993）である。バハレーンは古くから中継貿易基地として栄えてきたことから、特にイランとの関係が深く、国民の約半分がイラン系住民である。

また近隣諸国同様、石油収入の急増に伴う急激な国内開発が、多数の外国人労働者の流入を招き、インド人やパキスタン人等のアジア系住民もかなり在住している。

主要都市の人口は、1990年でマナーマ138,784人、ムハルク75,906人である。人口の半分以上は首都のマナーマに住んでいる（以上数値はEuropa Publications資料、1993）。

（参考文献）

World Development Report　1993　The World Bank

『バハレーンの経済社会の現状』 1989　国際協力推進協会

The Europa World Year Book Vol.1　1993　Europa Publications Limited

Country Profile : Bahrain 1993-1994　1993　EIU

(4) 略史

表－2：バハレーン略年表

年	出来事
1521年	ポルトガル支配下になる
1602年	ペルシア支配下になる
1783年	2世紀半にわたる外国支配に終止符
1861年	英国と平和友好条約締結
1880年	英国と排他条約締結、英国保護領になる
1932年	石油生産開始
1942年	ハリーファ首長即位
1968年	英国、財政的困難を理由にスエズ以東から撤退
1971年	独立
1973年	新憲法公布
1975年	ハリーファ新内閣成立
1981年	ＧＣＣ設立
	「バハレーン解放イスラム戦線」によるクーデター未遂事件
1986年	サウディ・アラビアとの連絡橋（コーズウェイ）開通
1988年	シーア派過激派による製油所爆破未遂事件
1989年	中国との国交樹立
1990年	旧ソ連との国交樹立
	イラクのクウェイト侵攻を非難、国連による経済制裁に参加
1991年	カタル・バハレーン国境紛争について国際司法裁判所にカタルが提訴
	ロシア連邦等で構成される独立国家共同体を承認

注）ＧＣＣ：Gulf Cooperation Council　湾岸協力会議

出所「バハレーン国概要」 1990 外務省

『中東研究』No.363 1992 中東調査会

(5) 民族等

バハレーン人が全体の62.2%、その他インド、イラン、オマーン、極東地域からの移住者が37.8%を占めている（以上数値は国際農林業協力協会資料、1993)。

また、バハレーンの人口構成の特質として、外国人労働者が多いことが挙げられる。彼らはバハレーンの人口の約3分の1を占め、主な出身地はインド、イラン、オマーンなどである。1992年には、外国人労働者は労働力の60%を占めている。また85年の推定によれば、バハレーンの経済活動人口は162,508人でこのうち57%がインド、パキスタン、東南アジアからの移住者とされていた（以上数値は国際農林業協力協会資料、1993)。

(参考文献)

Country Profile : Bahrain 1993-1994 1993 EIU

『国際情報大事典』 1992 学習研究社

『開発途上国の基本統計』 1993 国際農林業協力協会

（6）言語
公用語はアラビア語である。この他、英語、ペルシア語が使用されている。

（参考文献）
『世界各国要覧　6訂版』 1991　東京書籍

（7）宗教
バハレーンの住民の85%はイスラム教徒である。そのうち60%がシーア派で、残りがスンニ派である。後者には首長の地位を占めるハリーファ家をはじめとする支配層が属する（以上数値は Europa Publications 資料、1993）。
シーア派のうち約55%がイラン系シーア派で、日常生活ではペルシャ語を使う。残りのシーア派住民は土着シーア派で、イラン系シーア派がイランから、またスンニ派住民がネジドから渡来する以前よりバハレーンに居住している。
シーア、スンニという宗派の違いはあるものの、国民の大部分は敬虔なイスラム教徒である。
また、キリスト教徒も存在する。1981年4月には、人口350,798人のうち、イスラム教徒298,140人、キリスト教徒25,611人、その他の宗教27,033人、無宗教14人となっている（以上数値は Europa Publications 資料、1993）。

（参考文献）
Country Profile : Bahrain 1991-1992　1991　EIU
『国際情報大事典』 1992　学習研究社
『世界各国要覧　6訂版』 1991　東京書籍
The Middle East and North Africa　1993　Europa Publications Limited

（8）文化
国民の大部分がイスラム教徒であるため、人々の日々の生活も厳しいイスラムの戒律がその基盤となっている。イスラム教徒が遵守すべき勤行は、信仰の告白、礼拝、断食、喜捨、巡礼の5つである。年中行事その他の冠婚葬祭等の儀礼面ではアラブの伝統が今なお生き続けている。

（参考文献）
「バハレーン国」 1988　日本国際医療団

（9）マス・メディア
1）新聞
新聞はアラビア語のアクバル・アル・ハリージ（Akhbar al khaleej 公称発行部数22,000部）と英語の Gulf Daily News（公称発行部数11,500部）とアラビア語のアル・アヤム（Al Ayam、公称発行部数25,000部）の3紙がある（以上数値は EuropaPublications 資料、1993）。論調は政府寄りで、政府の見解をそのまま受入れ、その活動を記事にしている。

(参考文献)
The Europa World Year Book Vol.1 1993 Europa Publications Limited

2）放送
ラジオ局は国営の Bahrain Broadcast Station と民間の Radio Bahrain の2つがある。
テレビ放送は Bahrain Television が行っており、商業広告を行い、バハレーン、カタル、アラブ首長国連邦、サウディ・アラビア東部を放送網としている。
またバハレーンでは、サウディ・アラビア国内のダーランにおける米空軍及びダンマンのアラムコ社によって放送されているラジオ放送、同じくアラムコ社のテレビ放送を受信することができる。

(参考文献)
『世界各国要覧　6訂版』. 1991　東京書籍
The Europa World Year Book Vol.1 1993 Europa Publications Limited

表－３：経済指標［バハレーン］

1) 主要経済指標の推移	年	(1989)	(1990)	(1991)
	ＧＤＰ（百万ﾃﾞｨﾅｰﾙ）（注１）	1,347.5	1,467.5	N.A.
	一人当たりＧＮＰ（ドル）（注２）	N.A.	N.A.	7,130
	ＧＤＰ実質成長率（%）（注１）	2.5	1.2	N.A.
	消費者物価上昇率（%）（注１）	1.5	0.9	0.8
	失業率（%）	不明		
	貿易（百万ドル）（1991年）	貿易収支：-193.4（注１） 輸出額：3,468.9（注１） 主要相手国：日本（12.9%）（注３） 輸入額：3,662.2（注１） 主要相手国：ｻｳﾃﾞｨ・ｱﾗﾋﾞｱ（41.5%）（注３）		
	経常収支（百万ドル）（注１）	-102.9	224.9	-738.3
	対外債務残高（百万ドル）	不明		
	債務返済比率（%）	不明		
	外貨準備高（百万ドル）（金を除く）（注３）	105	123	151
2) 通貨（1993年10月末）（注４）	通貨単位：ディナール（BD） １ドル＝0.37695 BD			
3) 会計年度	１月１日～12月31日			

出所　（注１）International Financial Statistics Yearbook　1993　IMF
（注２）World Development Report　1993　The World Bank
（注３）Country Report : Bahrain,Qatar 2nd quarter　1993　EIU
（注４）東京銀行調べ

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食　料

(1) 一般事情

当国は、国土のほとんどが砂漠で、農業には不適である。しかし、国家政策として、できる限り食糧の自給率をあげることが課題となっており、オアシスを基点として開発するため、サウディ・アラビアから塩分を含まない土壌を輸入し、貴重な水を使って食糧増産に励んでいる。ただし近年、地下水の減少により水不足が深刻になり、農業は縮小されつつある。

現在、当国で生産可能なものは、野菜ではトマト、きゅうり、ナス、オクラ、にんじん、カブ、いも、キャベツ、ネギ、タマネギ、ニラ、レタス、ほうれんそうなどである。果物では、唯一自生品であるナツメヤシ、そのほかオレンジ、スイカ、メロン、パパイヤ、マンゴー、イチジク、ザクロなどがある。

魚類は政府の価格コントロールにより、安価に入手できる。種類も豊富であるが、近年、資源の減少により特定種で価格の上昇がみられる。肉類は鶏を除いて、また穀物類はすべて輸入に頼っている。

食料は世界中のすべてのものが輸入されており、かつ日本と比較して安く入手できるので、不便は感じられない。

また、衛生面においても、砂漠であること、および厚生省が厳しく管理していることにより良好である。

(2) 主な食料の出回り状況

米－－日本米はないが、同等のカリフォルニア米、オーストラリア米、エジプト米が簡単に入手できる。日本でいう外米は種類が豊富であり、インド、パキスタン、タイ、スリ・ランカなどいろいろな国から輸入している。

小麦粉－－原料を輸入して当国で加工した製品、輸入品と豊富である。日本製もある。

パン－－パン工場はたくさんあり、どこの店でも買える。食堂に行けば、ローカルスタイルの薄焼きの焼きたてのパン（ホプス）も買える。

肉、乳製品－－牛肉、羊肉、山羊肉、鶏肉、豚肉がスーパーなどで売られているが、イスラム国であるため当地の人は豚肉を食べず、売っていない店もかなりある。値段も、このなかでいちばん高い。牛肉、豚肉は冷凍でヨーロッパから、羊、山羊は生きたままオーストラリアから輸入している。鶏肉は当国産と輸入品とがある。ハム、ソーセージ、ベーコン、チーズはヨーロッパから輸入している。

牛乳、ヨーグルトは当国でも生産している。

魚介類－－島国であり、漁師も多く、安い魚が市場で簡単に手に入る。すべてキログラム単位で売っている。
うろことりや切り身にするのを専門にやっている人がいる。魚の種類はタイ、アジ、イワシ、カレイ、カマス、サワラ、キス、マグロ、カツオ、ハタ、そのほかいろいろある。

エビ、カニ、モンゴウイカも豊富に出回っている。遠洋漁業はなく、すべて近海物であるが、大きな魚が多い。貝は種類が少なく、ハマグリ、アサリぐらいである。

野菜－－もやし、ネギ、ほうれんそう、ニラ、タマネギ、トマト、レタス、キャベツ、カブ、白菜、いんげん、さやえんどう、セロリ、きゅうり、ナス、オクラ、ピーマン、とうがらし、かぼちゃ、にんじん、大根、じゃがいも、さつまいもなど、一般的な野菜は豊富にある。きのこはマッシュルームがある。ゴボウ、タケノコ、レンコンは缶詰しかない。

果物－－ナツメヤシ、みかん、オレンジ、スイカ、メロン、マンゴー、リンゴ、モモ、ナシ、イチゴ、キウイ、さくらんぼ、ザクロ、イチジク、パパイヤ、バナナ、ブドウ、パイン、ココヤシなど豊富にある。

調味料－－みそ、しょうゆをはじめ、世界中の調味料がある。特に、インド系のものは多数ある。

食用油－－オリーブ油、ヒマワリ油、コーン油などいろいろある。日本製もある。

酒類－－当国はイスラム国にもかかわらず禁酒ではないので、自由に酒を買うことができる。日本酒（松竹梅のみ）、日本製ビール（アサヒ・スーパードライのみ）も売っている。ただし、酒店はおおっぴらな看板は出していないので、慣れるまでは探すのに苦労する。飲酒は、ホテルかレストランか家庭かのいずれかにおいてとなる。値段は、日本の半額ぐらいである。

タバコ－－外国製タバコ各種、および日本製のマイルドセブン、マイルドセブンライト、セブンスター、ハイライトがスーパーで買える。日本の半額ぐらいである。

飲料水－－水道は完備されているが、海水の蒸留水と井戸水を混合して使用しており、地区によって塩分が気になるところがある。水質については、まったく問題ない。そのほか、宅配されている蒸留水で作った20リットル入りのアクアクール、各国から輸入され店頭で販売されるミネラルウォーターがある。清涼飲料も各国から輸入され、種類、品数とも豊富である。

菓子類－－日本の菓子を含めて、世界中の菓子が豊富にある。

その他－－豆腐、こんにゃく、冷凍の納豆、油揚、かまぼこ、日本製ラーメン、カップヌードル、うどんなどの日本食料品も東洋人向けのスーパー（韓国人経営）で買うことができる。干しいたけもある。

(3)　食料の入手

バハレーン島内には数多くのスーパーがあり、ほとんどの食料品や日用雑貨品を入手できる。また、各町には公設市場があり、野菜、果物、魚、肉などを安く買うことができる。ただしキログラム単位のものが多い。日本食料品は、中央市場隣の東洋食品専門店（電話　534462）と亜細亜食品（電話　232753）にある。

1-2　食器・調理器具など

(1)　食器・調理器具などの入手

特殊用途のものを除き、すべて当地で調達が可能である。電気製品についても、値段も日本と変わらないので、当地での調達をすすめる。日本製も豊富である。日

本製の場合、100ボルトへの切り替えスイッチがたいていついており、日本に持ち帰っても使える。

(2) 日本から持参した方がよい食器・調理器具など

すし桶、刺し身包丁などの特殊なものはない。出刃包丁は、必ず日本から持参すること。

1-3 外 食

(1) 飲食店

日本人がよく利用するレストランは、下記のとおりである。

*日本料理

慶 ヒルトンホテル内 電話 535000

ふるさと ガルフホテル内 電話 713000

*中華料理

マンダリン 電話 259775

香港 Umm Al Hassam、Budaiya 電話 728700、593212

Chinese Restaurant Adliya TEL 713603

China Tow Budaiya TEL 593350

メイフーワ シェラトンホテル内 電話 533533

ガルフロイヤル 電話 234228

*韓国料理

アリラン タイロスホテル内 電話 252600

*イタリア料理

La Taverna オアシスホテル内 電話 259979

Cico's Adliya 電話 713710

La Pergola ガルフホテル内 電話 713000

ローマ Umm Al Hassam 電話 725885

*フランス料理

Versailles リージェンシーホテル内 電話 231777

最高級のレストラン。正装のこと。

アルファナール(要予約) ディプロマットホテル内 電話 531666

バンカーズクラブ Budaiya 電話 691244

*メキシコ料理

Senor Paco's Adliya 電話 725873

サドル タイロスホテル内 電話 252600

*インド料理

Copper Chimney Umm Al Hassam TEL 728699

ムガル デルモンホテル内 電話 234000

*タイ料理

Hash House (木曜日は要予約) Adliya TEL 715094

Up a Tree Cuppa Tea Adliya 電話 714424

ドム・ヤム・グーン Umm Al Hassam 電話 742940

＊シーフード

Al Safina　Mina Salman　電話　727078

ホリデーインホテル (要予約)　電話　531122

＊ファーストフード

Dairy Queen (ハンバーガーとパフェ)

Salmaniya　TEL　273494

Sitrah　TEL　700016

Manama　TEL　213311

Kentucky Fried Chicken　Adliya　TEL　712620

Muharraq、Budaiya、Riffa、Manama にもある。

Chacoal Grill　Bab Al Bahrain　TEL　270242

Umm Al Hassam、Budaiya にもある。

Pick a Pizza　Budaiya　TEL　593411

Umm Al Hassam にもある。

Pizza Hut　Gudaibiya　TEL　232232

合計8ヵ所にある。

Burgerland　Budaiya　TEL　591166

Hardee's　Manama　TEL　232774

(2) その他の飲食店

ケバブ、チキンティッカ、シュアルマや、インド・パキスタン料理を扱う小店などはいたるところにある。政府の管理が厳しいため、すべての飲食店はわりに清潔である。

バー、スナックは独立の店としては存在せず、大手のホテル内にだけある。

2. 衣　料

2-1 衣　料

(1) 一般事情

当国は、海洋性の砂漠気候で雨はほとんど降らないが、夏は高温多湿で、日中は40℃を超し、エアコンが必需品となる。大量に汗をかくため、家ではスポーツシャツ、Tシャツ程度の軽装でよい。普通の外出ならば、そのままで外に出ても全く問題ない。短パンにTシャツ、サンダルが一般的であり、あまり上品な格好はかえって目立つ。出勤はノーネクタイ、半袖のワイシャツやカッターシャツでどこに出ても問題はない。ジーパンで出勤している人もたくさんいる。冬は10℃ぐらいまで気温が下がる日もあり、厚手のセーター、トレーナー、カーディガンなども若干用意した方がよい。

衣料品店はたくさんあるが、女性物は非常に派手なものが多く、地味なものを好む人は日本から持参した方がよい。また、家で靴をはきかえる生活を予定しているならば、スリッパを日本から持参した方がよい。日本風の室内スリッパは売っている。しかし、当国の気候を考えるとスリッパよりゴムぞうりがよい。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

男性用－－汗を大量にかくので、下着は綿製品を多めに持参した方がよい。スーツは使用する機会は少なく、夏物が少しあればよい。余暇を楽しむためには、帽子、海水パンツ、サングラスが必要である。ゴルフやテニスをしようと思う人はその用意が必要である。

女性用－－下着類は材質、サイズ的に問題があるので、多めに持参することをすすめる。なお、生地は木綿を推奨する。そのほか用途、趣味により、水着、テニスウエア、ゴルフウエアなどの用意が必要である。パーティ用にワンピースの用意もした方がよい。当地の衣類は日本でいえば舞台衣装のような派手なものが多い。

子供用－－子供服専門店がたくさんある。子供用は派手さはあまり関係ないので、当地で購入しても問題ない。

乳幼児用－－紙おむつからバギー、トイレ用品までなんでも安く購入できるので、当地調達でよい。ただし、トイレ・トレーニング用の紙パンツはない。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

当地の男性が着ている白い服は気候にあっている。外出に恥ずかしければねまきにしてもよい。安いので、日本への帰国時の記念にもよい。

当地の人にとって正装ともなるサンダルは、イタリア製の皮革製品が安く豊富にあるので当地購入がよい。仕立屋がたくさんあり、たいていインド人である。仕立料が安いので、質を気にしなければ試してみるのもよい。

(4) その他の留意点

夏はとにかく暑く汗をかくのでTシャツなどをすすめるが、女性など日焼けを気にする向きには長袖も必要である。日差しもきつく、日焼けしやすい。雨具の用意はほとんど不要である。

外国人は原則として何を着ても自由である。しかし、女性が外出する時には、短パン、ノースリーブは避けること。

2-2　礼　装

(1)　パーティ

大使館主催、ホテルなどで行なう正式パーティに夫婦同伴で出席の場合は、男性は背広、ネクタイ、女性はワンピースかドレスが必要である。家庭などで行なう非公式なものは、ふだん着でよい。

(2)　式　典

公式の式典に出席する機会はない。イスラム国であり、行事はすべてイスラム教に関係しており、ムスリム以外の人には無関係である。祭日はイスラム暦や月の状態で決められ、毎年月日が異なる。

(3)　その他の冠婚葬祭

男女別々に集会することがほとんどである。結婚式では女性は着飾るが、男性は特に正装する必要はない。ただしホテルで披露宴を行なう場合は、男性も正装している。

(4)　その他の留意点

該当情報なし。

2-3　洗濯、仕立て、修繕、保管

(1)　洗　濯

電気洗濯機、アイロン、洗剤など日本製、ヨーロッパ製が豊富に出回っている。洗濯物干し用ハンガー、洗濯ばさみなども日本製を含め豊富にある。

クリーニング店もたくさんある。

(2)　仕立て、修繕

Cloth Suq（Souqueとも書く）をはじめとして、布地専門店が数多くある。また仕立屋も多数あり、紳士服はインド人の男性が、婦人服はフィリピン人の女性が2,000～3,000円程度の安い値段で仕上げてくれる。

(3)　保　管

日常はクーラーをかけっぱなしで室内は乾燥しているので、湿気およびかびの心配は不要である。ナフタリンが必要であれば、スーパーで入手できる。

3. 住　　宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

ビラ、バンガロー、アパート、フラットなどの呼び名で、住宅が新聞上で宣伝されている。値段は200～2,000ディナールで、いろいろとある。ビラ、バンガローと呼ばれる住宅は、コンパウンドと呼ばれる高い塀で囲まれた広い庭に数十軒単位で建てられた独立家屋である。このなかには共同のプール、テニスコート、集会場などがあり、各家にはセントラル・エアコン、駐車場が完備され、コンパウンド単位で専用のガードマン、作業者、管理人を大家が配置している。マナーマに近いか、部屋数が多いか、新しいかで値段は変化する。一般の日本人は700～1,000ディナール、管理職クラスで1,000～1,500ディナールぐらいが標準のようである。ただし標準的な家具付きとなると、この値段に300～400ディナールがプラスされる。

日本人は子弟の教育の関係で、日本人学校のあるブダイヤ地区に集まっている。単身者や子供のいない日本人などは、マナーマ市内のアパート、フラットなどに住んでいる。

(2) ホテル事情

日本人は、だいたい5つ星の一流ホテルを利用しており、ディプロマットホテル、ガルフホテル、ヒルトンホテル、ホリデーイン、リージェンシーホテル、シェラトンホテルのなかから選ぶのがよい。いずれもマナーマ市内の中心部に集まっており、世界中どこからでも予約ができる。飛行場から各ホテルまでは、6～7キロメートル程度である。

(3) 住宅の探し方

当初は現地の事情がわかりにくいので、大使館に依頼して大使館が専門に使っている不動産屋を紹介してもらうのが無難である。しかし、大使館関係ということで相場より2～3割増しの家賃を提示されることがあるので、要注意のこと。新聞などにもたくさん物件が紹介されている。ＪＩＣＡの前任者や友人などがいれば、その人に相談するのもよい。

責任を持って家の修繕をしてくれる家主であることが肝心である。

(4) 住宅の選定上の留意点

日本人の住んでいる地域はまず問題はないが、道路には一般に排水対策がされていないので、土地の低いところは避けた方がよい。しかし、年間を通じても雨の降る日は約10日しかなく、降ってもスコール風のどしゃぶりですぐにやんでしまう。雨漏りにも気をつけて探す必要がある。

夏の暑さは厳しく長く、家ではエアコンをかけっぱなしにするので、音の静かなセントラル・エアコンのついた家を探した方がよい。冬の風の強い日には冷え込み、暖房が必要となる。暑い時に着任した場合、暖房設備のことを忘れがちになるので注意が必要である。

駐車場は屋根付きのものがよい（夏の日差しがきつく、車のなかが焼けるように熱くなる)。

また、あまり娯楽もないので、プール、テニスコートの完備した住宅を探した方

がよい。

生活用水には十分留意する必要がある。当地の水道水には塩分が含まれており、普通日本人は飲料水には使用しないが、風呂には利用せざるを得ない。そのため小さい子供や肌の弱い人は、肌あれを起こす。また湯上がり時に肌がべとつく感じがし、さっぱりしない。コンパウンドによっては、スイートウォーターといって、敷地内の特別な施設で塩分を取り除いた後、各家庭に送水するシステムをとっている。このようなコンパウンドはやや家賃が高めであるが、上記に該当する人のいる家庭は考慮すべきである。

(5) 住宅の契約

契約書は国の規定用紙を使用しているので、標準に従うのが一般的であるる。しかし、交渉次第でいろいろとこちらに有利な条件をつけることができるので、ねばりが肝心である。

(6) 電気、ガス、水道などの手続と管理

水道、電気は政府の管轄であり、同一の役所から供給される。支払いは、水道、電気局の窓口か指定銀行で行なう。

都市ガスはなく、一般的には電気コンロが炊飯の道具となるが、必要であればプロパンガスが民営(バハレーン・ガス　電話　702811)で売られているので、これを利用すればよい。

電話は電話局の管轄であり、所定の経費で簡単に取り付けてくれる。支払いは、電話局の窓口か指定銀行で行なう。

(7) その他

該当情報なし。

4. 医　療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

日本から直接入国する場合、予防接種も証明書も不要である。当国は医療には非常に力を入れており、また自然環境が湿地、森林のない砂漠気候で、伝染病などの病原菌が繁殖する環境ではない。

(2) その他の準備

眼鏡は当国で簡単に安く入手できるが、実際に作った人の評判はあまり芳しくない。コンタクトレンズはソフトに限り入手できる。ただし日本製のものはない。保存液や洗浄液も入手できるが、ハード用はときどき在庫がなくなる。

歯科治療ではすぐに抜く傾向にあるので、日本でできる限り治療しておいた方がよい。幼児の治療は、泣いたりするとただちに拒否される。赴任前に治しておくべきである。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

国立の総合病院（Salmaniya Medical Center　TEL　252761）が完備しており、国民はすべて無料である。また国防軍人用に設立された、国立のBDF（Bahrain Defence Force）Hospital（TEL　663366）は外科関係が優れている（外国人は緊急窓口で受け付ける）。　しかし、これらの病院は常に込んでおり、待ち時間が長いため、日本人やヨーロッパ人は、私立のAmerican Mission Hospital（TEL　253447）、International Hospital（TEL　251666）、Awali Hospital（登録制、TEL 753434）を利用している。

(2) 緊急時の対応と措置

999番に電話し、警察、救急車、消防車を呼び出すことができる。また上記の医療機関は、Awali Hospitalを除いて緊急システムを完備しており、常に医師が待機している。個人でEmergency Gateに行っても十分に対応してくれる。Awali Hospitalでも行く前に電話連絡をすれば、医師を呼び出しておいてくれる。

薬局は当番制で深夜のオープンが義務づけられており、常にどこかで薬を入手できるようになっている。当番薬局は毎日、新聞に発表される。マナーマのJafaar Pharmacyは年中無休、24時間営業である。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

薬の使用説明書が英語の専門用語でわかりにくいので、持病がある人は日本から持参した方が無難である。特に持病がなければ、ＪＩＣＡ支給の日常常備薬があれば十分であろう。また、日本の各メーカー特有の薬は持参した方がよい。

医薬品についての英語の解説書を持参することをすすめる。

(2) 任国で調達できる医薬品

薬局でたいていの薬を購入できる。ただし、ヨーロッパ製品が多く、薬品の専門知識がなければ選択には苦労することがある。

(3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品、紙おむつ、綿棒、ガーゼ、包帯、脱脂綿など、スーパー、薬局に豊富にある。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

該当情報なし。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

薬局で妊娠検査試薬セットを購入できるため、妊娠したかどうかは早期に自己判断できる。

当国のシステムでは、定期検診は妊娠8ヵ月までは各地域にあるクリニックで受けることになっている。その後、Salmaniya Medical Center に行くことになる。しかし、ほとんどの日本人は私立の American Mission Hospital 、Awali Hospital で受けている。技術的には当地で出産してもなんら問題はないが、コミュニケーションを含めて精神的な問題が多いので、日本に帰国して出産した方が安全である。

(2) 出産後の対応

当地で出産した場合、当地の出産証明書を入手し、大使館に依頼して、パスポートおよびビザの取得をしなければならない。

(3) 育 児

育児については、特に子供が難病などにかかっていなければ問題ない。フィリピン人、インド人、スリ・ランカ人のベビーシッターが安く雇える。

ベビーパウダー、粉ミルク、離乳食、紙おむつなどは、すべてスーパーで購入できる。

4-5 手　術

(1) 任国で可能な手術

医療設備、医師には国がお金と力を入れている。医師などの弱い部門では、ヨーロッパから外国人の医師を雇い入れている。問題は日本人側にあり、語学、特に医学的専門用語などに弱く、意思の疎通に不安がある。したがって生命にかかわるようなものなら日本に帰国した方がよい。

バハレーン人の多くが、手術はサウディ・アラビア、イギリスやドイツで行なっている。

(2) 手術設備の状況

Salmaniya Medical Center、 American Mission Hospital 、International Hospital は、最新のあらゆる設備を備えている。

(3) その他の留意点

別料金をとられるが、個室、付添いの選択もできる。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

一般的に室内の冷房を強くかけすぎるために、外気との温度差が大きく、体調を崩しやすい。また当国の夏季は高温多湿で、衣服が汗ですぐにびしょぬれとなり、かぜをひきやすい。それ以外は、砂漠気候のため病原菌の温床となる不潔な湿地も

なく、伝染病は発生しない。

(2)　風土病・伝染病

特にない。外国人労働者には滞在許可取得の際に、エイズ検査証明の提出が義務づけられているが、ＪＩＣＡ専門家は提出を求められない。

(3)　有害動物、病害虫

ハエは多い。蚊は芝生を植えている高級住宅地にのみいる。サソリはいるといわれている。

4-7　保健衛生

(1)　飲料水

1-1 (2) 項で述べた通り、海水の蒸留水と井戸水を混合して使用しているため、通常、水道水は飲まない。スイートウォーターを購入し、飲料水とする。アクアクールの容器が至便である。

(2)　濾過器の入手法

スーパーで売っている。

(3)　その他の留意点

ゴミの始末は、すべてひとつのゴミ袋に入れて所定の容器に捨てる。これをゴミ収集車が定期的に回収する。日本人が住む高級住宅街では、管理作業員が集めにくる。国民のゴミに対する意識は非常に低く、どこにでもゴミを捨てる人が多い。ただし、乾燥気候であるため、病原菌発生の原因とはならない。

水洗トイレの普及率は、ほぼ100%である。しかし、地盤が砂地であるためと工事品質の悪さのため、パイプが破れて汚水の吹き出している例が多い。

5. 教　育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

当国の国立校と、外国人が作った私立校とがある。国立校は、大学以外はすべて入学無料である。私立校は、インド人の学校、パキスタン人の学校、アメリカンスクールなどがある。日本人学校も、この種のグループ分けのなかに入れられている。大学はバハレーン大学と医療技術大学がある。ＧＣＣ諸国の共同出資によるガルフ大学の開校は計画半ばで頓座している。

(2) 日本人学校

日本人の多く住むブダイヤ地区に日本人学校（電話　791550）があり、小学校と中学校がある。修学旅行やバザーなどが盛んである。施設、環境に恵まれている。現在32人の生徒がいる。教諭数は校長、教頭を含めて10人である。

(3) 当地校、外国人学校

アラビア語を話せないと現地校に入学できない。現地校のIbn Sina校ではアラビア語と英語で授業が行なわれ、外国人子弟の入学も可能である。

日本人が通学している外国人学校は、次のとおりである。

バハレーンスクール（Bahrain School）　電話　727828

Mina Salmanにあるアメリカンスクールで、生徒数は約1,900人である。

セントクリストファーズスクール（Saint Christopher's School）電話　685621

Budaiyaに小学部、Isa Townに中学部がある。イギリスのカリキュラムで授業をしている。

(4) 幼稚園

私立の幼稚園には、3～6歳ならば、どこにでも簡単に入園できる。日本人が多く通園しているところは、カヌー幼稚園（Kanoo Kindergarten、英国スタイルで厳しいことで有名)、ナディーン幼稚園、プレ・スクール・ナーサリー（電話　690489）である。

4歳未満だと欧米人の経営する10～30人程度の小規模プレースクールに入れる人が多い。ブダイヤにあるリリプット・プレーグラウンド（Liliput Playground）が日本人には好評である。1歳から入園させることができる。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

入学手続は保護者同伴で学校に行き、所定の用紙で申請する。編入の場合は、日本での在学証明書が必要である。入学金は100ディナール、授業料は1ヵ月110ディナール、送迎（学校所有のマイクロバスで）費用と傷害保険料は1ヵ月20ディナールである。

金曜日が週末で、毎月第3土曜日が休みとなる。学期は日本と変わらず、長期休暇は少し長い。日本の子供の日と天皇誕生日、バハレーンの祝祭日は休校である。

(2) 当地校、外国人学校

入学手続には、所定の申請用紙、パスポートのコピー、写真などが必要である。9月に年度がかわり、冬、春に短期の休暇、夏季に約2ヵ月の長期休暇がある。バ

ハレーンスクールの年間授業料は3,680 ディナール、セントクリストファーズスクールは1,800 ディナールである。

(3) 幼稚園

所定の申請用紙を提出すれば入学手続は終了である。入園料は100〜350ディナールである。毎月園費を払うところと3ヵ月ごとのところがあり、1ヵ月50ディナール前後が相場である。普通、兄弟で通園すると割引がある。

自家用車で通園させる人がほとんどであるが、園によっては、園のスタッフがサイドビジネスでドライバーとして送迎を行なっている。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

Public Library、British Council Library があり、無料である。

(2) スポーツ施設

各種のスポーツクラブがあり、ほとんどが会員制である。日本人には、一流ホテルが経営している会員制クラブに入るのがいちばん簡単である。サッカーは特に盛んであり、立派なグランドがあちこちにある。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

日本人子弟専門の家庭教師のようなものはない。英会話、アラビア語会話などについては、日本人女性で習っている人が多いので紹介してもらうとよい。また、ブリティッシュカウンシルで有料で各種の英語教室が開かれており、簡単に参加できる。

(2) 通信教育

赴任前に、子供に適した通信教育を探しておくのが望ましい。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

日本語の教材は、当地では入手不可能である。日本人専用の教材類は日本から持参する必要がある。英語などの書籍はFamily Bookshop（電話　211288）で求められる。文房具はヨーロッパ製、日本製といろいろ豊富にある。

6. 家庭の使用人

6-1 運転手

(1) 雇　用

当国は車社会であり、生活すべてに車が必要である。運転手を雇用している人もいるが、簡単に日本の免許証が当国のものに書き替えられるため、ほとんどの日本人は自分で運転している。

当国では運転手はバハレーン人と決まっており、高給（200～300ディナール）を払わなければならない。ＪＩＣＡ専門家個人として雇用するには高すぎる。

(2) 日常管理

該当情報なし。

(3) 教育指導

該当情報なし。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

6-2 メイド／サーバント

(1) 仕事の種類と人数

フルタイムで雇う場合はせいぜい1人で、子守、掃除などなんでもさせている。パートタイムで雇う場合は、外周りの掃除、家のなかの掃除、洗車、子守など1～3人ぐらいを使い分けている。

(2) 雇　用

新聞広告もあるが、知人の紹介がいちばん信頼できる。パスポートとスポンサー（身元引受人）を確認すべきである。

パートタイムの場合、1時間当たり1ディナール、フルタイムの場合には住込み、食事付きで月額80～120ディナールである。また、週3回の洗車の場合、1ヵ月当たり8～10ディナールを支払う。

(3) 日常管理

日本人は使用人を使うのが下手で、厳しくしないと手を抜くようになるので、気をつけなければならない。契約時に細かい点（超過勤務やアクシデントについて）まで話しておかないと、必ずトラブルのもとになる。

6-3 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇　用

治安がよく、ガードマンを雇用している人はほとんどいない。日本人の住むコンパウンドには専属のガードマンがいるため必要としない。庭師もコンパウンドに専属がいる場合がほとんどで、雇用の必要はない。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

市営バスが一定区間を走っているが、日本人は利用していない。主な輸送手段はタクシーである。マナーマ市内ではどこでもタクシーが拾える。料金はメーター制ではないので、事前に交渉しなければならない。ちなみにマナーマ市内なら1ディナール、空港からマナーマ市内までは2~3ディナールである。ホテルの前からのタクシーは高い料金を請求されるので注意が必要である。やや値段が高いが、24時間営業でメーター料金制のラジオタクシー(スピーディモーターズ、電話 682999)は安心して使える。

幹線道路はすべて舗装されており、3車線である。市内の道路側駐車場は完備されている。中心街には屋内、屋外の低料金駐車場もある。

(2) 自家用車を利用する場合

環状交差点(ラウンドアバウト)が多く、右側通行に慣れるまでは十分注意する必要がある。歩行者の安全を守るため住宅地や学校の近くでは、車のスピードをおとさせる凸凹(ハンプス)が設けられている。慣れない道では、夜間、見落としやすいので気をつけること。道路の舗装状況は、日本よりよいくらいである。

スピード違反の取締りがあるが、皆非常にスピードを出す。したがって、車線変更時は特に注意が必要である。また、ウインカーを出さない人が多いので、これにも気をつける必要がある。郊外に出て舗装道路をはずれて砂漠の上を走る時は、タイヤが埋まって出られなくなる可能性があるので、注意が必要である。

(3) レンタカーなどを利用する場合

レンタカーは非常に発達しており、たくさんある。しかし、下記のレンタカー業者を利用するのが無難である。

AVIS
デルモンホテル内　電話　234423
空港内　電話　320242

Budget
シェラトンホテル内　電話　233233
ディプロマットホテル内　電話　530840
リージェンシーホテル内　電話　231777
空港内　電話　325817

Europcar
Head Office　TEL　682999
空港内　電話　323999
ガルフホテル内　電話　713999
Sh. Rashid Bldg.　TEL　277999

(4) 道路地図

書店、土産物店などで売っている。

7-2　交通事故

(1)　対処方法

事故を起こした場合は、以下の手順で対応する。1) 事故車両を動かさず999番で警察に通報、2) 警察官の到着を待つ、3) 警察官が事故の状況から加害者と被害者を判定、4) 交通局で罰金を払う（加害者は10ディナール、被害者は2ディナール）、5) 事故証明を受ける、6) 保険会社に行き事故処理の手続を開始する。

警察の発行する事故証明書がなければ車の修理もできないので、必ず警察に届けることが必要である。

相手に死傷者が出た場合は、警察に保護されることになる。これは被害者の身内からの仕返しから身を守ることが目的なので、警察の指示に従い、大使館へ連絡するようにする。

(2)　救急病院

999番に電話して救急車を呼ぶと、国立病院の緊急病棟に送り込まれる。

(3)　盗　難

盗難件数は最近漸増している。

7-3　交通違反

(1)　交通法規

飲酒運転は留置所に1泊させられたあと、身元引受人の払い下げが必要で、罰金は500ディナール以上である。そのほかの違反などは、日本とほとんど同じである。駐車違反がもっとも多く1年間に2万件となっている。スピード違反の場合、10キロメートルオーバーにつき10ディナール要求される。シートベルトについては、着用するよう法律規制が行なわれている。

10歳以下の子供が公道で自転車に乗ること、5歳以下の子供がひとりで道路を横断することは道路交通法で禁止されている。

(2)　対処方法

捕まった時には免許証と車両登録証と保険証の提示を求められるが、携行を忘れていた場合は次の日までに交通警察に提示すればよい。

7-4　車の修理

(1)　部　品

メーカー別に代理店があり、その代理店が新車の販売から修理、部品販売まで一貫して面倒をみている。したがって、ほとんどの部品はすぐに手に入る。また、小物を扱うカー用品店もたくさんあり、この面での心配は全然ない。

(2)　修理工場

各メーカーの専門工場と、個人経営の小さな工場が多数ある。専門工場は込んでいることと、担当が別々に分かれていることもあり、あまり親身に相手をしてもらえないので、小さな修理は町工場を利用した方がよい。ただしトヨタ・ガレージには当地採用の日本人スタッフが2人おり、いろいろな便宜を図ってくれる。

洗車は自分でしている人はあまりおらず、駐車場で寄ってくる掃除人か、家の管理人のアルバイトに頼むか、洗車場に入れる。当地の水道水は塩分を含んでいることを忘れないこと。

8. 通　信

8-1 電　話

(1) 一般事情

電話設備については、国の政策で非常に力を入れており、国内、海外を問わずダイヤル直通ですぐにかかる。公衆電話も道路沿いのあちこちに設置されている。

また、車両電話、ポケットベルも発達している。

(2) 国内電話

ホームテレホンは30フィルス (1ディナールは1,000フィルス)、公衆電話は100フィルスである。

(3) 国際電話

日本の番号081のあとに市外局番から0を除いた番号を続ければよい。料金は、1分間当たり780フィルス（約217円）である。金曜日、祝祭日、夜間（19:00～7:00）はさらに低料金サービス（1分間540フィルス）がある。

8-2 電　信

(1) テレックス

発達している。

(2) ファクシミリ

非常に発達しており、ほとんどの会社に設置されている。

(3) 電　報

あまり使用されていない。

8-3 郵　便

(1) 一般事情

郵便物は住所地に配達される。しかし安全のため、私書箱を利用している人が多い。この場合、個人で郵便局にとりに行かなければならない。ＪＩＣＡ専門家は大使館にメールボックスを設けてもらえる。

郵送料は、国内は20グラムごと50フィルスである。日本へははがきが150フィルス、封書が10グラムごと200フィルス、印刷物が10グラムごと125フィルスとかなり安い。

小包の場合、500グラムまでが2ディナール、それ以上は500グラムごとに700フィルスの追加となる。日本への郵便は5日から1週間で届く。速達扱いはないが、書留は300フィルス追加で適用される。ポストはあちこちに設置されているが、郵便局に直接投函する方が早い。

国外からの小包は通知（ピンクのカード）がくるので、10日以内にムハラク郵便局に受取りに行かなければならない。勤務時間は7:00～13:00である。サイン付きのレターを書けば本人が行く必要はない。

(2) 課　税

郵便物には、一律に5フィルスが課税される。

9. マスコミ

9-1 新　聞

(1) 主な日刊紙

英字新聞（宅配は3ディナール、月末集金）は、「Gulf Daily News」（バハレーン発行）、「Gulf News」（アラブ首長国連邦ドバイ発行）がある。宅配、スーパー売り、街頭販売（100フィルス、休日200フィルス）がある。定期購読、宅配は、近くの新聞取扱店に依頼する。

(2) 本邦日刊紙

ＤＨＬ、ＯＣＳなどでとり寄せる以外に、入手方法はない。個人では高くつく。

ＯＣＳ（P.O. Box 16、TEL　213821、FAX　272890）はロンドンから衛星短縮版をとり寄せている。1日遅れだが、宅配サービスがあるため便利である。朝日、読売、日本経済、日刊スポーツなどの新聞を予約購読（3ヵ月ごと）できる。朝日新聞の場合、3ヵ月間の購読料は144ディナールである。なお休暇などで不在の時は、事前に連絡しておけば、その分割引してくれる。

(3) 欧米紙

ホテル、スーパー、本屋などで1～3日遅れのものが売られているが、かなり高い。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

アラビア語放送は当国はもちろん、サウディ・アラビア、アラブ首長国連邦、カタルなど近隣諸国からも入る。英語放送はRadio Bahrainで行なっている。周波数は96.5ＦＭである。

(2) ラジオジャパン

該当情報なし。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

BBC World Serviceが24時間放送している。性能のよい短波専用ラジオなら、日本を含む世界の放送を聴くことができる。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

アラビア語放送はBahrain VHF4チャンネルがあり、英語放送はBahrain UHF55チャンネルとAramco VHF3チャンネルがある。カラー放送で、平日は16:00～23:00、木・金曜日、祝祭日は開始時間が早まる。サウディ・アラビアやアラブ首長国連邦（ドバイ）の放送もみられる。

また、24時間放映のBBC World Service（Star TV）もある。

(2) テレビ受信

当国のテレビはＰＡＬシステムを使っており、日本のNTSCシステムとは異なるので注意が必要である。当地で売っている日本製のテレビは、たいていマルチシステムとなっており、切り替えが可能である。また、電圧の切り替えも可能にできているので、テレビ、ビデオは当地での購入がよい。もちろん、マルチシステムならば日本に持ち帰っても使用可能である。また、当地で購入した録画済みのテープを

みることも可能である。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

映画館はAlhamra、Aljazeera、Alnasr、Awali、Delmon、Muharraq、Pearlなど約7ヵ所ある。インド・パキスタン映画が主流である。ときどき、英語で上映を行なっているが、観客のマナーが悪く（特に飲食の音がうるさい)、あまり楽しめない。

(2) 劇　場

該当情報なし。

10-2 出版・書籍

(1) 一般事情

書店の数は少ない。定期刊行物もあまり見あたらない。

(2) 書　店

唯一の総合書店であるFamily Bookshop（電話　211288）では、さまざまな分野の洋書とアラビア語の書籍を入手できる。洋書は注文すればほとんど入手可能である。ただし時間が異常にかかるうえ、かなり高い。日本語の書籍購入はほぼ不可能である。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

日本人がよく利用しているのは、ブリティッシュカウンシル（電話　534535）である。マナーマにある英語教室で、1学期は約2ヵ月半、学期ごとに随時入学可能で、登録制である。入学金はなく、授業料は1学期100ディナールである。入学前に試験を受け、能力に合ったクラスに振り分けられる。日本語による指導はない。

私立のPolyglot School（電話　271722）でアラビア語の授業を行なっており、10週65ディナールである。

(2) 家庭教師

専業の家庭教師がいるので、知人に紹介してもらう。相場は、1時間当たり5～10ディナールである。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

自然動物園（Al Areen Wildlife Park　電話　631828)、国立博物館（National Museum　電話　292977)、図書館、ブリティッシュカウンシルなどがある。

自然動物園の開園時間は土～水曜日は11:00～16:00、木曜日は8:00～16:00、金曜日は8:00～10:30と13:00～16:00、料金は大人1ディナールで子供は半額である。

国立博物館の開館時間は土～水曜日は8:00～14:00で木曜日は10:00～17:00である。

(2) 日本・任国友好協会などの有無と活動の内容

特に友好協会のようなものはなく、日本人会があるだけである。

(3) その他の文化活動、文化施設

チェスクラブ、ブリッジクラブ、スクラップブルクラブなどの各種同好会がある。

10-5　写真、ビデオ

(1) 写　真

フィルムはフジ、コニカ、コダックなどがある。それぞれの写真店は専用の最新式の機械を備えて現像を行なっており、安く早く手に入る。カメラも品数豊富に揃っており、購入は簡単である。

(2) ビデオセット

日本製を主体として豊富に出回っている。貸テープ屋が発達しており、店がたくさんある。

(3) ミュージックテープ

アラブ、欧米、インドを主体としたミュージックテープの店がたくさんある。

10-6　音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

専用の大ホールはないので、コンサートにはホテルの大広間が使われる。開催回数は少ない。

(2) コーラス、演奏グループ

該当情報なし。

(3) ピアノなど

該当情報なし。

(4) レコード

カセットテープ、ＣＤは多いが、レコードはない。

(5) 民族楽器

該当情報なし。

(6) その他の楽器

該当情報なし。

10-7　手芸、絵画、美術工芸

(1) 手　芸

手芸用品は、だいたい手芸用品店で手に入る。織物を織っている村や、素焼きの陶器（当国でとれる粘土を用いた焼物でポッタリーと呼ばれる）を作っている村があり、土産物店で売っている。

(2) 絵画、美術工芸

絵画、美術工芸品店は、ホテル、ショッピングセンター、マナーマ市内にたくさんある。

10-8　趣　　味

(1) 園　芸

園芸資材、種子、苗、鉢などはスーパー、花屋で購入できる。日本と違って種の持ち込みにはあまりうるさくないので、日本からいろいろな種子を持ち込んで試してみるのもおもしろい。

(2) 釣　り

当国は淡路島程度の大きさの島であり、釣りは立入り禁止区域以外はどこでも可能である。釣り道具はスポーツ店、スーパーに日本製、ヨーロッパ製が揃っている。

釣り餌はエビ、イカ、魚の切り身を持参する。遠浅の海に囲まれているため、岸からは小型のタイ類やサヨリしか釣れない。大物を狙うにはボートフィッシングをする必要がある。傭船は簡単にできるが、4～5人乗りで100～150ディナールほどかかる。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

暑いので、夏の間は室内が主体となる。日本人の間ではブリッジ、マージャン、ファミコン、ビデオが盛んである。ヒルトンホテルには日本クラブ(電話 535000)がありマージャンなどのゲームを楽しめる。

日本人学校が図書館の本(離任者が寄贈した本)やビデオテープを無期限で貸し出している。金曜日を除いて毎日9:00～16:00まで利用できる。料金は本1冊100フィルス、ビデオテープ500フィルスである。

(2) 芸能興行

ホテルで毎晩、主にフィリピン人歌手によるショーが行なわれている。

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

郊外に砂漠ゴルフ場(アワリゴルフクラブ 電話 754653)が1ヵ所ある。18ホール、パー72である。グリーンフィーは6.5ディナールである。打ちっぱなし(コリアンクラブ 電話 591280)も1ヵ所あるが、現在、休業中となっている。

(2) テニス

大きなホテルにはテニスコートがあり、会員制である。日本人が多く住んでいるコンパウンドにはテニスコートが付属しており、居住者は自由(予約制)に使用できる。

(3) 水 泳

大きなホテルにはプールがあり、会員制である。日本人が多く住んでいるコンパウンドにはプールが付属しており、居住者は自由に使用できる。水質はよく、病気感染の心配もない。

当国の沿岸は遠浅の砂浜であり、海水浴に適している。立入り禁止区域以外は、どこでも泳ぐことができる。海水浴場もある。ただし、住民が捨てる瓶などでけがをしないように気をつけなければならない。水、食料、日傘、帽子などは持参する。真夏の海水浴は日射病、熱射病の危険がある。

(4) その他のスポーツ、用具、ウエア

ボウリング場はBudaiyaに1ヵ所ある。スケート場はマナーマ市内のファンランド内にある。どちらも、いつも閑散としている。当地の人々の間ではサッカーがもっとも盛んであるが、クラブ制であり、日本人の参加はむずかしい。

スキューバダイビングは日本人の若者の間では盛んで、免許取得のため講習に参加する人も珍しくない。(アクアティク 電話 271780)

運動用具、ウエアの専門店はたくさんある。

(5) スポーツクラブなど

大手ホテルが会費をとって運営している。日本人の所属するクラブは、ディプロ

マットホテル（電話　531666)、ヒルトンホテル（電話　535000)、ガルフホテル（電話　713000）である。年会費は150～200ディナールである。ビジターは1日5ディナール前後である。

乗馬、スキューバダイビング、エアロビクスなどのクラブもある。

10-11 子供の遊び

日本人子女は、日本人学校内の日本人の友達とそれぞれの自宅を行き来して遊んでおり、あまり他国の子供とは遊んでいない。スポーツとしては、水泳、スケートボード、乗馬、アイススケート、ローラースケート、ボウリング、バレーボールなどをしている。

アダリパークは広大な敷地にさまざまな乗り物やゲームが配置されている遊園地で、幼稚園児や児童は十分楽しめる。入場料なしで、1回の利用費が100～200フィルスである。22:00まで開園してるため、夏季でも夕方から遊びに行ける。

玩具などはマザーケア（マナーマ店　電話　210980、このほか4ヵ所にある)、ダダハイ、ノベルティなどの店で安く購入できる。幼児用は種類が豊富にあるが、小学生高学年用のものはあまりない。

11. その他のサービス

11-1　金融機関

多くの銀行があるが、当国最大の銀行である National Bank of Bahrain を利用すると、22の支店が国内各地にあるため便利である。ＡＴＭカードで24時間、預金の引き出し、預け入れ、電話や電気料金の支払いなどができる。

銀行のほかにも多くの両替商が町中にあり、若干よいレートで両替できる。両替商でのトラブルはほとんど聞かない。

11-2　コンピュータ

IBM や Apple対応のパソコンおよび周辺機器は当地で調達できる。またさまざまなメーカーのプリンターや消耗品も調達できる。ただし、欧米諸国や周辺諸国に比べて税金の関係でやや高いため、当地の人でも国外で購入する人が多い。

11-3　美容院

高級ホテル付属と単独のものが多数あるが、ホテルの方が料金が高い。店員はフィリピン人が多い。セット（カット）が3～10ディナール、パーマが10～25ディナール、シャンプーが1～5ディナールぐらいである。

12. 観　光

12-1 地方旅行上の留意点

当国は小さい島国であり、特に地方といわれるものはない。

ほとんどのところが写真撮影可能であるが、とりあえず現地人に可否を聞くべきである。特に、断りなしに女性にカメラを向けないこと。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

マナーマ市内のBab Al Bahrainから不定期で観光バスが出ており、国が小さいので2日もあればすべてをみることができる。

主な名所旧跡は下記のとおりである。

バハレーン国立博物館ーー4,000年前の旧石器時代に始まる当国の歴史の貴重な出土品や資料が数多く展示されている。

ダウ船造船所ーーダウ船は、中近東特有の形を持った伝統的な木造の帆船である。

アダリ・プールーー自然のわき水によるオアシスで、アダムとイブの住んでいたエデンの園だったという伝説が残っている。

ポルトガル城塞跡ーーポルトガルの支配下にあった1521 ～ 1622年に建てられた城で、バハレーン・フォート（ブダイヤ地区）とアラド・フォート（ムハラク地区）の2ヵ所にある。

バルバル神殿ーー古代ディルムン時代の遺跡である。

第1号油井ーーアラビア半島で最初に発見された油井である。

シェイクス・ビーチーーイーサ首長のプライベート・ビーチで、外国人に限り出入りして海水浴を楽しむことができる。時にはイーサ首長と話をすることができる。写真撮影は禁止である。

生命の木ーー砂漠の真ん中にぽつんと1本だけ育っている不思議な木である。

スーク・アル・カミース・モスクーー当国でいちばん古いモスクである。

キングファハド・コーズウェイーー1986年に完成したサウディ・アラビアとバハレーンをつなぐ全長25キロメートルの道路（橋）である。サウディ・アラビアとの国境近く（橋のほぼ真ん中）にレストラン付き展望台がある。

12-3 旅　行

(1) 自動車

国は小さく、旅行といっても車でドライブするだけで、すべて日帰りである。都市を離れるとガソリンスタンドが少なくなるので、注意しなければならない。ガソリンの値段は、日本の4分の1程度である。

(2) バ　ス

該当情報なし。

(3) 鉄　道

鉄道はない。

(4) 航空機

国内に空港はひとつある。

12-4　旅行代理店

該当情報なし。

12-5　ホテルなど宿泊施設の手配

該当情報なし。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

日本人会の連絡網がある。大使館→日本人会理事→各区域役員→会員相互である。ＪＩＣＡ専門家の場合、大使館から直接連絡されることになっている。

1994年末から、民主化要求運動でデモや暴動がバハレーン人集落で多発している。この動きは数年周期で生じており、現在の政治システムが続く限り今後も起こる可能性は高い。活発な集落の近くに住むことは避けたい。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

治安状況はよい方だが、近年盗難が増加している。

(2) 防犯対策

戸締まり、現金・貴金属類の保管場所などに気をつけること。一般に家が広いため、その気にさえなればどこかから侵入できる。寝る時には寝室にロックすることを忘れないこと。

使用人が侵入者を導いたり、コンパウンドのメンテナンス・スタッフが侵入のために仕事中にロックを外しておくことがある。他人が来宅した時は、特に戸締りを点検すべきである。

(3) 被害時の心得

警察に届ける。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

火災は、ときどきエアコンの過熱などで起こる。風害は、風と一緒に飛んでくる砂が家のなかや車のなかに堆積するのに悩まされるくらいのもので、水害、地震はない。

(2) 防災対策

該当情報なし。

(3) 被災時の心得

警察、消防車、救急車と、すべて緊急の連絡は999番に電話する。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

ＪＩＣＡ専門家の着任時には、大使館の担当官および派遣員が到着ロビーで出迎えてくれる。空港内はあまり混雑していることがないので、特にミーティング・ポイントを決めてなくても問題ない。

(2) 入国手続書類

飛行機内でくれる入国カードの記入、提出だけである。

(3) 入国審査

日本にはバハレーン大使館はないので、日本でのビザの取得はできない。入国時に簡単に発行される72時間の滞在ビザで入国して、入国後に国内で長期滞在などの諸手続を行なう。または、当国に存在の人に事前にNon Objection Certificate (NOC) の手配をしてもらう。

(4) 税関検査

タバコ400本と酒2本は無税で持ち込むことができるが、国内での値段が安いので重いのを無理して持ってくる必要はない。税関のチェックの目的はあくまで麻薬、ポルノ、銃砲類の取締りである。

(5) 空港内での留意点

空港のポーターは荷物の数に関係なく、ポーター1人当たり1ディナール見当払えばよい。

(6) 空港からのトランスポーテーション

タクシー、ホテルのマイクロバスがたくさん出ている。空港からマナーマ市内まで2～3ディナールだが、大型の荷物があると1個につき1ディナールを請求される。

(7) その他の留意点

パスポートにイスラエル出入国のスタンプが押してあると、当国に入国は不可能である。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

チェックインは1時間半前であり、出国税1人当たり3ディナール（子供でも乳幼児でも同額）が必要である。主要ホテルで発売しているため、事前に購入しておくこともできる。

(2) 出国手続上の留意点

休暇などで出国する場合は、事前にリターン・ビザ（再入国ビザ）を取得しておく必要がある。配属機関に依頼すれば、2～3日で得られる。また滞在ビザの期限も同時に調べておくこと。

14-3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

該当情報なし。

(2) 車の処分

中古車センター、知人、新聞広告などの手段がある。中古車センターでの売却は、

手続もしてくれる。

(3) 家財道具の処分

新聞広告、ガレージセール、知人などに売却する。

(4) 住宅の明け渡し

契約時の約束に従って解約を行なう。電話契約時のデポジットを払い戻してもらう。

(5) 外貨持出し規制

該当情報なし。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1　家財道具

(1)　輸送業者

一般に入居先は決まっていないはずであるから、日本大使館気付として荷物は空港もしくは港止めとし、荷物が到着したら通知してくれるよう大使館に頼み、連絡を受けたら荷物を引き取りに行く。荷物を受け取ったら、受取場所にいる運送屋に依頼して自宅に運んでもらう。

また荷物の引き取りから家までの配送などすべての手続を代行する企業（Asia Cargo & Packing　P.O. Box 20141、TEL　534599、FAX　534598）も当地にある。大使館職員が利用しており、紹介してもらうと割安に取り扱ってくれる。

(2)　輸入手続

必要書類は船荷証券 (B/L)、インボイス、パッキングリストの貿易書類とパスポートのコピーである。荷物は、電気製品がない場合はほとんど開けられない。近年、ビデオテープの検査が非常に厳しくなっている。

(3)　家財道具の購入

該当情報なし。

15-2　自 動 車

(1)　一般状況

車は絶対必要である。ほとんどの日本車、アメリカ車、ヨーロッパ車が揃っており、日本からの輸送の必要はない。帰国時に高級外車を日本に持って帰る人がいるくらいである。車には、クーラー、カーステレオが標準的についている。車の価格は日本より安い。

(2)　輸入手続

該当情報なし。

(3)　任国での購入

車の購入は簡単にでき、関税がないため世界各国の車を日本より安く購入できる。ローンも組むことができる。

(4)　自動車登録

車の登録には申請用紙、身分証明書（ＣＰＲ）もしくはパスポート、保険証、写真2枚、25ディナールが必要である。手続は購入先の業者に依頼する。登録は毎年更新する必要があり、登録時と同じ書類と20ディナールが必要である。　保険証を更新した後しか手続できない。遅れると高額の罰金を支払わされるので注意すること。

手続は交通警察で行なわれ、混雑していなければ1時間程度の所要時間（7:00の業務開始時に行くと30分以内）である。あらかじめ申請用紙にサインをしておくと、本人が出向く必要はない。

(5)　免許証取得

免許証は所定の申請用紙、日本の免許証および日本大使館発行の翻訳証明書（10ディナール）、ＣＰＲカードもしくはパスポート、手数料（12ディナール）、写真2枚を添えて交通警察の窓口に申し込む。書類手続だけなので、所定の用紙にあらか

じめサインをしておくと自分で申請に行く必要はない。通常、5年間有効の免許証が1〜2時間で発行される。

国際免許証も交通警察の認可を受けたうえで1年間通用する。実際はレンタカー業者が交通警察の認可業務代行ということで、手続は簡単にできる。着任時はレンタカーを借りてゆっくりと車を探し、落ち着いてから免許証取得にかかる方が精神的に楽である。

車検は自動車登録の更新時に、交通警察で毎年行なわれるが、安全に走れるかどうかのチェックだけ（ブレーキ、各種ランプ、排気ガスの色）であり、日本のような厳格なチェックはない。新車の場合、当初3年間は車検が免除されている。

(6) 保険、税金

保険は車の車両登録条件に入っており、強制である。多くの保険会社があり、保険の種類もさまざまである。三井海上火災の事務所（TEL 251656、FAX 250806、P.O. Box 781、日本人駐在員はいない）があり、日本大使館職員はじめ多くの日本人が利用している。他社に比べて少し割高ではあるが、トラブルはない。保険料は車種や年式により異なる。新車のクレシーダ（日本名：マークⅡ）とカローラのFull Insuranceの場合、それぞれ300ディナールと230ディナールほどである。Third Partyの場合は、約40〜50ディナールである。同乗者の傷害保険は1人につき10ディナールである。

税金はかからない。

16. 社　交

16-1 風俗習慣

当地の男性は、カンドーラ（アラビア式の丈の長い衣服）が結構多い。これは当地の気候風土に適しており、快適なためである。

当地の女性は黒のアバヤを着ている人もいる。

16-2 パーティでの留意点

パーティに子供は参加させない。

16-3 来客時の留意点

相手がアラブ人なら酒類、豚肉を出さない。しかし、アラブ人でも、当国は禁酒国ではないので相手次第である。

家族を招待する場合、女性用と男性用の2つの出入り口と2部屋用意しなければならない。ただし、相当親しくならない限り、家族を連れてこない。

16-4 訪問時の留意点

該当情報なし。

16-5 禁止されている言動

指さし、頭をなでる、左手での握手などは避けること。コーヒー茶わんなどは右手にいただくこと。

17. 任国官公庁

官公庁の執務時間は木・金曜日を除く7:00～14:15までである。1994年1月現在の官公庁は、以下のとおりである。

外務省　P.O. Box 547　電話 262277
司法宗教省　P.O. Box 450　電話 531333
開発工業省　P.O. Box 1435　電話 291511
内閣担当国務省　P.O. Box 1000　電話 262266
教育省　P.O. Box 43　電話 258400
内務省　P.O. Box 13　電話 272111
保健省　P.O. Box 12　電話 255555
法務省　P.O. Box 790　電話 259990
運輸省　P.O. Box 10325　電話 534534
情報省　P.O. Box 253　電話 681811
財政国家経済省　P.O. Box 333　電話 262400
住宅省　P.O. Box 5802　電話 533000
公共事業・電力・水省　P.O. Box 6000　電話 522033
商業・農業省　P.O. Box 5479　電話 531531
労働・社会省　P.O. Box 32333　電話 687800
国防省　P.O. Box 245　電話 665599
首長府　P.O. Box　電話 666666
青年スポーツ評議会　P.O. Box 5598　電話 725500
バハレーン通貨庁　P.O. Box 27　電話 241241

18. 在外日本関係機関など

在バハレーン日本大使館

住所　House No.403, Rd. No.915, Salmaniya, Area Section No.309, Manamah

(P.O. Box 23720)

電話　243364

19. 地方都市

1都市1国家であり、地方都市はない。

任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見（説明不足、間違い、誤字、脱字、ご要望など）をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、任国情報に関することのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

［送付先］〒162 東京都新宿区市谷本村町 10-5
国際協力事業団国際協力総合研修所
技術情報課　任国情報係

国名		年度	年版

氏名			年齢	歳	性別	男・女
利用区分	所属（担当）部課名	指導科目	派遣期間			
JICA役職員						
JICA専門家等						
その他		(所属先)	(当該国での滞在期間)			
住所						
電話番号			日付	年　月　日		

ページ	行	内容

国総研記入欄					
記事		技術情報課確認印			
		データベース修正処理	課長	代理	担当
		月　日	月　日	月　日	月　日

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるＪＩＣＡ長期派遣専門家、ＪＩＣＡ職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。なお、政府技術協力のために赴任するＪＩＣＡ役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用はＪＩＣＡの用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステイタスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしぶりを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、ＪＩＣＡ図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

ーーーーアジア地域ーーーー
1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア
(ジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタ、メダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレイシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ（バンコク、チェンマイ、コンケン）
18. ヴィエトナム

ーーーー中近東地域ーーーー
1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ（アンカラ、イスタンブール）
15. アラブ首長国連邦（ﾄﾞﾊﾞｲ、ｱﾌﾞﾀﾞﾋﾞ、ｱﾙｱｲﾝ）
16. イエメン（ｻﾅｱ）

ーーーー太平洋地域ーーーー
1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. パラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア

ーーーー欧州地域ーーーー
1. カザフスタン
2. キルギスタン
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー

ーーーーアフリカ地域ーーーー
1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エティオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. コートジボアール
11. ケニア
12. リベリア
13. マダガスカル（アンタナナリボ、ディエゴ・スアレス）
14. マラウイ
15. モーリシァス
16. モザンビーク
17. ニジェール
18. ナイジェリア
19. ルワンダ
20. サントメ・プリンシペ
21. セネガル
22. セイシェル
23. ソマリア
24. タンザニア（ダルエスサラーム、ザンジバル）
25. トーゴー
26. ザイール
27. ザンビア
28. ジンバブエ
29. スワジランド

ーーーー中南米地域ーーーー
1. アルゼンティン
2. ボリヴィア（ラ・パス、サンタクルス）
3. ブラジル（ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、ポルトアレグレ、ベレーン）
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グァテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグァイ（ｱｽﾝｼｵﾝ、ｴﾝｶﾙﾅｼｵﾝ）
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダッド・トバゴ
18. ウルグァイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア

「任国情報（バハレーン） １９９５年版」
平成７年３月２０日発行
編集・発行所　国際協力事業団　国際協力総合研修所
〒162 東京都新宿区市谷本村町 10番５号
電話 (03) 3269-2357
編集協力　　財団法人　日本国際協力センター